



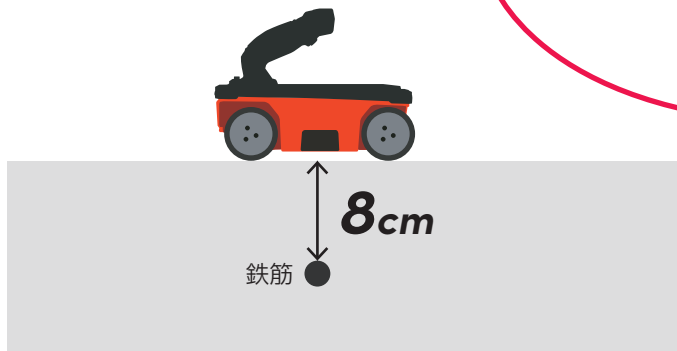
手動での深度校正手順

深度(比誘電率)の手動校正の手順(XT / LXT)

ストラクチャスキャン

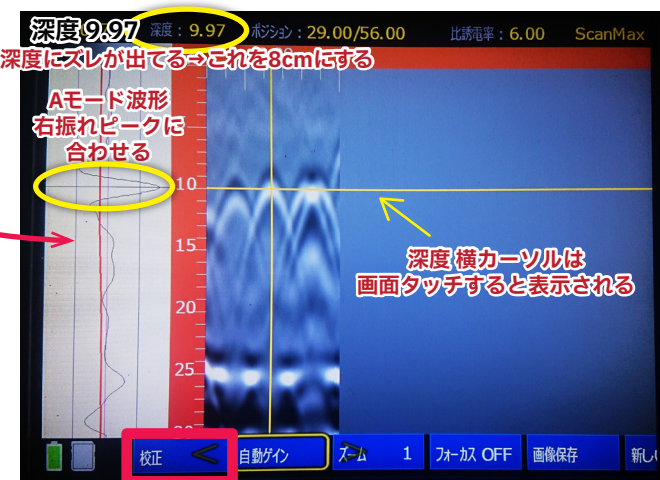
XT/LXT

1 深さの分かっている鉄筋 かぶり 8 cmの鉄筋を2D探査

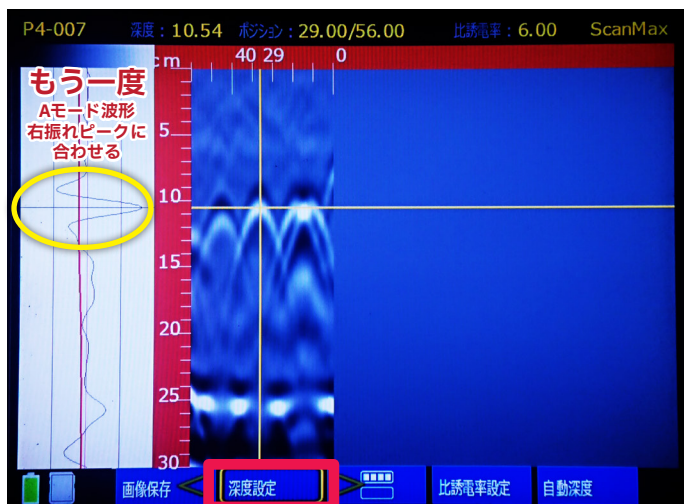


※【校正】に進むと、表面波処理が解除され生データの波形画像になります
校正終了後は、必ず最初の測定画面へ戻ってください

※比誘電率は分からないのでとりあえず 6.00 で設定



※探査中にバックすると下のメニューに【校正】が表示されます



2 鉄筋の山形波形のピークに
縦横カーソルを合わせて
【校正】を選択

3 深さの分かっている鉄筋の
山形波形のピークに再度カーソルを
合わせ、深度校正【深度設定】を選択

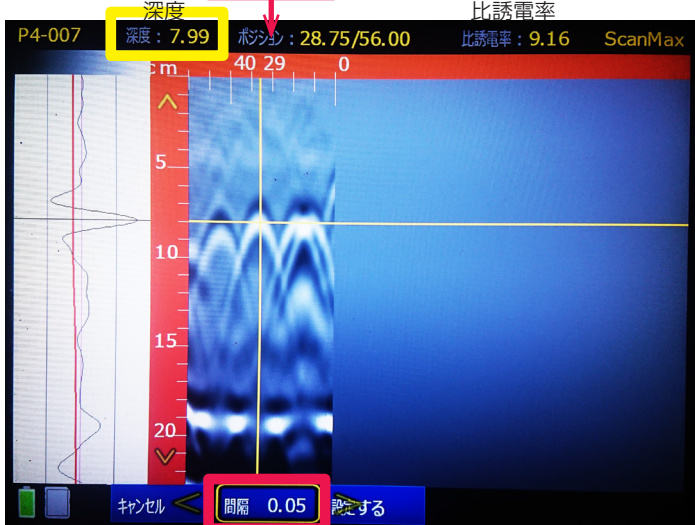
4 実際の深度の値になるよう設定
ここでは左上に表示されてる
深度を8cmにする ※上下ボタンで数値を変更
※中央ボタンで0.5/0.05に単位切り替え

5 深度を8cmに合わせたら、
自動的に右上の比誘電率が
コンクリートの正しい比誘電率となる

6 設定完了後必ず、【設定する】選択→
上下段記号マーク選択→元の測定画面に戻る

※元の画面に戻らないと、深度がズレた状態で表示されます

ここで、測定終了しても、
次回の測定から校正された比誘電率
の設定が引き継がれてます



↑ 単位

※もし厚みが分かっている壁厚(Aモード波形:厚みは左振れピークになります)があれば、そこから手動校正することも可能です

試験体のように、実際の現場では中が見えないので、鉄筋かぶり(深さ)は分からない
EZシリーズの【自動深度補正】機能を使用することで正しく探査可能!

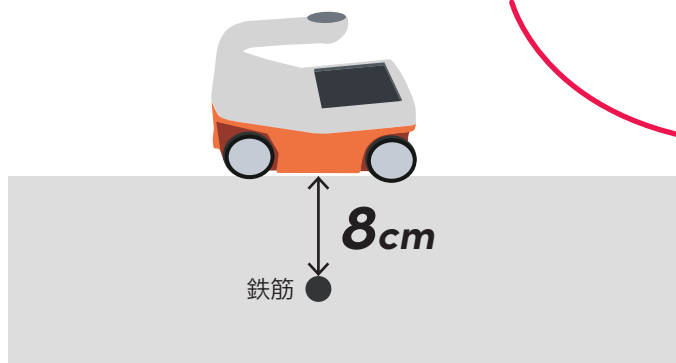
手動での深度校正手順

深度(比誘電率)の手動校正の手順(EZ / LT / HR)
ストラクチャスキャン

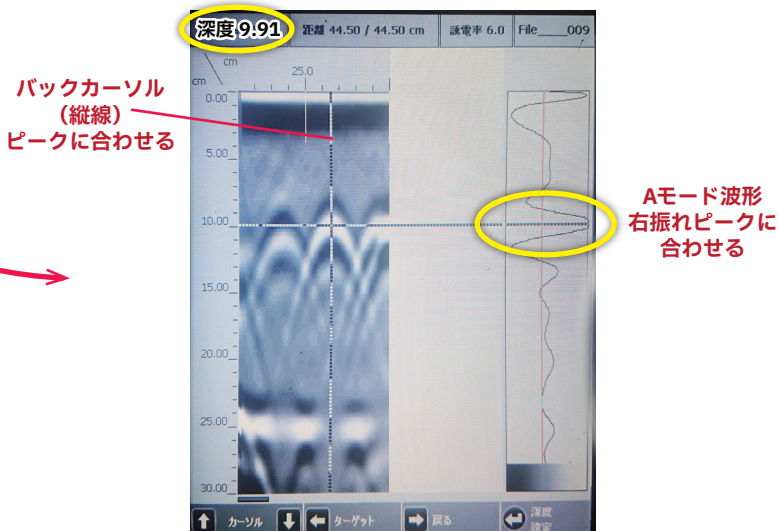


EZ/LT/HR

1 深さの分かっている鉄筋 かぶり 8 cmの鉄筋を2D探査



深度にズレが出てる→これを8cmにする



※探査中にバックすると下のメニューに【深度カーソル】が表示されます

2 鉄筋の山形波形のピークに バックカーソル(縦線)を合わせて 【深度カーソル】中央ボタンを押す

3 横線深度カーソルを鉄筋の位置に合わせて 【深度設定】中央ボタンを押す

4 実際の深度の値になるよう設定 ここでは左上に表示されてる 深度を8cm(8.00)にする

※上下ボタンで数値を変更

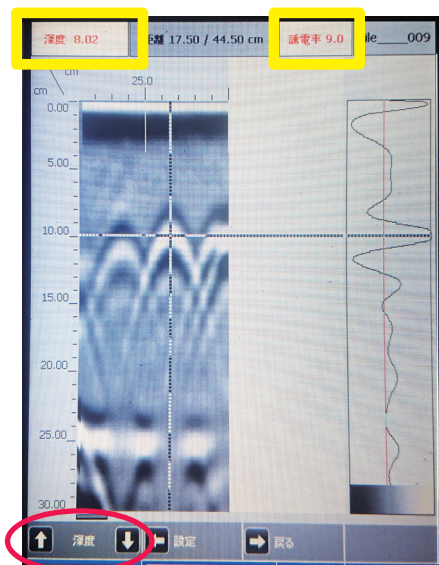
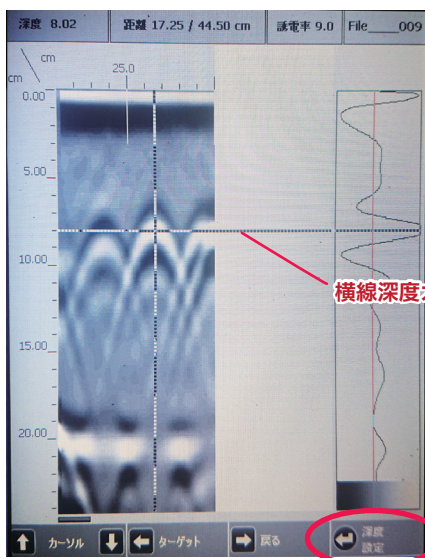
※深度はなるべく8.00に近づける

5 深度を10cmに合わせたら、 自動的に右上の比誘電率が コンクリートの正しい比誘電率となる

※設定完了後→【設定】→【戻る】

6 ここで、測定終了しても、 次回の測定から校正された比誘電率 の設定が引き継がれてます

※もし厚みが分かっている壁厚(Aモード波形:厚みは左振れピークになります)
があれば、そこから手動校正することも可能です



試験体のように、実際の現場では中が見えないので、鉄筋かぶり(深さ)は分からない
EZシリーズの【自動深度補正】機能を使用することで正しく探査可能!